

日本子育て学会機関誌 論文編 執筆・投稿要領

2024年2月4日 改正版
機関誌編集委員会（論文編）

1 投稿資格

日本子育て学会会員は、会員種別にかかわらず論文を投稿することができる。論文の筆頭著者は必ず個人会員でなければならない。

2 投稿原稿

投稿する論文は、未発表のものに限る。内容は、子育て実践において有用性のあるもので、教育学、心理学、保育学、医学・保健、児童福祉・社会福祉などの基礎的、実践的な領域の研究成果報告および議論の場になるものである。

3 論文の区分

論文には以下の区分を設ける。

研究論文：

オリジナルな内容で、かつ、先行研究に対する当該研究の課題および得られた知見の位置づけが明確である論文。編集委員会による審査の対象となる。

実践・調査報告：

オリジナルな内容で、かつ、読者に情報を広く公開し、共有することの意義が明確な論文。編集委員会による審査の対象となる。

研究ノート：

オリジナルな内容で、かつ、萌芽的あるいは試論的な内容を含む論文。編集委員会による審査の対象となる。

特別寄稿論文：

特集テーマに関連し編集委員会が依頼する論文。編集委員会の審議を経て掲載する。

4 倫理への配慮

論文の内容および研究手続き全般において、人権の尊重福祉に十分配慮する。

原稿執筆に際して、とくに偏見のない表現に留意する。

データの使用や写真などの提示にあたっては、当該協力者から投稿・公刊の承諾を得た旨を明記する。

5 著作権

投稿論文に対する国内外の著作権は、最終原稿が投稿された時点から原則として本学会に帰属する。

6 原稿の書式

① 原稿は日本語または英語の2種類のいずれかを原則とする。原稿作成には、ワープロソフトを使用し、A4用紙を縦置きにして横書きする。

② 英語の原稿を提出する際は、専門家による校閲を受ける。編集委員会が要求した場合には、その証明書類を添付する。

7 字数

- ① 字数は1ページ 1,200字（40字×30行）を目安に印刷する。これは刷り上り 1/2 ページ分に相当する。
論文の長さは、論文題目（日本語と英文）、日本語要約と英文要約、本文、文献、資料、図表、付記、研究のメッセージなどすべてを含めて、刷り上がり 10 ページ以内とする。
- ② 上下左右の余白（2cm 以上）および行間は十分にとる。

8 原稿の表現

投稿原稿は「である」調で書き、常用漢字、現代かな遣いを用い、簡潔明瞭に記述する。
英数字は半角文字を用いる。数字は算用数字を使用し、計測単位は原則として国際単位を使用する。
略語は一般に用いられているものに限る。ただし、必要な場合には初出の時にその旨を明記する。

9 論文題目

題目は、論文の内容を簡潔に表現したものが望ましい。日本語および英語の題目をつける。

10 要約

- ① 要約は、日本語の場合は 400～600 字、英語の場合は 200～250 語とする。英語要約は専門家による校閲を受ける。編集委員会が要求した場合には、その証明書類を添付する。
- ② 要約の最後に 5 語以内のキーワードをつける。

11 図表

- ① 図表は、刷り上り本文の左右 1/2 幅もしくは左右いっぱいの幅に収めることを留意して作成する。
- ② 図と表は別紙に描き、表 1、図 1 または Figure 1、Table 1 のように通し番号と題をつける。
- ③ 図の題は下部に表の題は上部に書く。写真は図に含められる。説明文はいずれも下部に記す。
- ④ 図表の挿入希望箇所を、本文原稿の欄外に指定する。
- ⑤ 図表、写真などを他の文献よりそのまま引用する場合は、著者自身が事前に著作権者より許可を得た上で、必ず出典を明示する。

12 注

- ① 特定箇所への注は、該当箇所の右肩に番号を記して、その内容をページ下ないしは文末に示す。
- ② 表の注は、該当する表の下に“注”と記して、文章で述べる。
- ③ 検定における有意水準の注は、“*”を使って示す。
- ④ その他、統計などの表記については、APA（アメリカ心理学会；American Psychological Association）の Publication Manual（<https://apastyle.apa.org/>）に準拠する。

13 文献

- ① 文献は、投稿原稿の末尾に著者名のアルファベット順に一括して挙げる。
- ② 文献リスト中の著者名は、「～ら」「et al.」などと省略せずに全員を記載する。
- ③ 雑誌名は省略しない。
- ④ 単行本は、著者名、刊行年次、表題、出版社名（外国のものは出版地も記す）の順、雑誌論文は、著者名、刊行年次、表題、雑誌名、巻数、ページ数を記す。
- ⑤ 文献提示の例
書籍 村井潤一郎・柏木恵子 (2008). ウォームアップ心理統計 東京：東京大学出版会
Tomasello, M. (1999). *The cultural origins of human cognition*. Cambridge, MA: Harvard

University Press.

雑誌 石川信一・戸ヶ崎泰子・佐藤正二・佐藤容子 (2006). 児童青年に対する抑うつ予防プログラム：現状と課題 教育心理学研究, **54**, 572-584.

Moore, G. A., Cohn, J. F., & Campbell, S. B. (2001). Infant affective responses to mother's still face at 6 months differentially predict externalizing and internalizing behaviors at 18 months. *Developmental Psychology*, **37**, 706-714.

⑥ 本文中の引用

著者 1 名の場合：藤永 (2009) は、子育てについて～

～ということが示唆されている (藤永, 2009)。

著者 2 名の場合：～のことが示されている (前田・高橋, 1993)。 2 回目以降も毎回連記

著者 3 名の場合：大内・長尾・櫻井 (2008) は、幼児を対象にして～ (初出時)

大内ら (2008) は (2 回目以降)

Blake, Osborne, & Olshansk (2005) は、この要因を～ (初出時)

Blake et al. (2005) では、～ (2 回目以降)

著者 4 名以上の場合：安藤・岡本・下山ら (2004) は、～ (初出時)

安藤らは、～ (2 回目以降)

このほか文献提示のしかたは、APA の Publication Manual に準拠する。

14 研究のメッセージ

- ① 要約とは別に、保育者、保護者、支援者に向けて研究が示唆するメッセージを平易なことばで記述する。
- ② 研究メッセージは、400～800 字とする。

15 原稿の提出

- ① 投稿票 (A4) を作成し、原稿とともに送付する。投稿票には、以下の情報をもれなく記載する。
 - (1) 論文区分 (2) 論文題目 (日本語・英語) (3) 著者全員の氏名および所属 (日本語・英語)
 - (4) 代表者の住所・電話番号・電子メールアドレス (5) 論文ページ数 [印刷仕上がりに換算したページ数] (6) 「要約」の文字数・ワード数およびキーワード数 (7) 「図」「表」、その他「注」などの数 (8) 「メッセージ」の文字数
- ② 「子育て研究 論文編 投稿者用チェックリスト (Word)」を「学会ホームページ>知る>機関誌」からダウンロードし、チェックをおこなう。
URL : https://kosodategakakai.com/downloads/kosodatekenkyu_checklist201610final.pdf
- ③ 「投稿原稿 2 部」 (※うち 1 部は、査読用として氏名・所属を削除したもの) 「投稿票」「子育て研究 論文編 投稿者用チェックリスト」を電子ファイルに保存 (Word または PDF) した上で、日本子育て学会機関誌 (論文編) 編集委員会宛 (kosodate.henshu@kosodategakakai.com) に電子メールで提出する。

16 その他

- ① 投稿論文と内容的に関係の深い同一著者の論文がある場合には、そのコピーの提出を求められることがある。
- ② 2 回目以降の原稿提出は、編集担当者の指示に従うこと。
- ③ 各年度の9月末の時点で「採択」となった論文が、その年度末に発刊する巻に掲載される。

附則

制定 2011年3月13日

改正 2015年10月23日

改正 2022年10月2日 施行 2023年4月1日

改正 2023年8月23日 施行 2023年9月1日

改正 2024年2月4日